

次号予告

特集／理学療法・作業療法の学問的体系をどうするか

理学療法・作業療法の学問としての展開…… 国療東京病院 砂原 茂 一
 理学療法の学問的体系化への思索…………… 有馬温泉病院 奈良 勲
 作業療法の学問的体系化への思索…………… 都心障センター 寺山 久美子
 精神科作業療法の学問的体系化を考える…………… 日下部病院 富岡 詔子
 対談／理学療法・作業療法の学問的体系
 をどうするか…………… 大阪大学 中川 米 造
 (司会) 有馬温泉病院 奈良 勲

とびら…………… 府中リハビリ専門学校 森 永 敏 博
 講座 住まいと身体障害

1. 身障者のための建築基本論…………… 日本大学工学部 野村 敏
 “ 失行・失認 I (1) 総論と運動失行…………… 東京大学病院 上田 敏
 ミニ対談…………… (頸損連絡会事務局長) 中西正司・(慶応大学) 藤沢しげ子
 プロGRESS リウマチ (1)…………… 神奈川リハビリテーションセンター 岡崎 健
 “ 児童精神医学における最近の諸問題 (被虐待児症候群)
 ……………… 国立衛生研究所 池田 由子

文献抄録

編集後記

早や師走を迎え、本年も総決算の時期となりましたが、読者の皆さんのこの一年は、いかがでしたか。

さて今月は、身近な脊髄損傷に目を向けて見ました。大半が脊髄神経の完全麻痺後の治療で、ともすれば型にはまってしまう行きづまりを感じていませんでしょうか。医療サイドからだけの問題として取りあげるには、視野が狭いとの反省に立って「脊髄損傷自立への側面」と言うテーマで特集を組みました。歩行訓練・自己管理・就労に際しての作業環境および家庭主婦の住環境の観点からそれぞれ御経験の深い先生方に筆をふるっていただきました。

紙面の都合で論文の本数にも限られ、職業、心理・社会リハビリテーション分野の方々には、一堂に会して御意見を座談会でうかがいました。この中では医療リハビリテーションに引き続き、こんなにも広い分

野と深くかかわりあいがあったのかと、司会をしながら感じました。各専門分野の立場はそれぞれ異り、意見も少しずつ違いが見られますが、どの意見をとってもうなずけることばかりで、教えられることが多くあったのは、私だけではないと思います。われわれ PT, OT にしても、広い視野を持ちつつ専門性を発揮させる必要性を改めて思い知らされた気がします。

本誌の編集に参画して常々思うことですが、各職場においてりっぱな仕事をされておられたり、学会などで優れた発表に触れるにつけ、是非、集成して投稿してほしいと希望します。また PT, OT の分野に女性の進出がめざましいですが、家庭の主婦業に一時専念される前に何か一つはペーパーに残してほしいと思います。自分のした仕事は責任があり気になるもので、常に新しい時代を知る機会も増え、子供が大きくなってカムバックする時にも大いに助けになると信じます。(大喜多 潤)

<編集顧問>

天 児 民 和
 九州労災病院長
 五味 重 春
 筑波大学心身障害学系教授
 砂原 茂 一
 国立療養所東京病院長
 津山 直 一
 東京大学教授・整形外科
 水野 祥太郎
 川崎医科大学学長
 (五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上田 敏
 東大リハビリ部
 荻島 秀 男
 わらび診療所
 大喜多 潤
 兵庫県リハセンター
 鈴木 明 子
 府中リハビリ専門学校
 寺山 久美子
 都心障センター
 奈良 勲
 有馬温泉病院
 福屋 靖 子

松村 秩
 都養育院リハビリ部

<編集同人>

大橋 博
 大丸 幸
 金子 翼
 鎌倉 矩子
 紀伊 克昌
 駒沢 治夫
 佐藤 章
 佐藤 馨
 嶋田 智明
 高橋 正明
 武富 由雄
 谷岡 淳
 富岡 詔子
 中屋 久長
 藤沢 しげ子
 松本 妙子
 丸谷 隆明
 矢谷 令子
 山下 隆昭
 和 才 嘉昭
 (担当 細田・西塚)